

令和5年8月1日（火）
北九州市発達障害者支援地域協議会

報告

発達障害支援に関する普及啓発等の
取組み（発達障害支援を考えるシン
ポジウム開催、市政だより掲載）
について 資料

発達障害支援

を考えるシンポジウム

発達障害のある人が地域で自分らしく安心して生活するために、まわりの人はどのように関わっていったらよいのでしょうか。このシンポジウムを通して一緒に考えてみませんか。

入場無料 / 定員300名

日時 2023(令和5)年

開場 / 12:20

3月18日 土

開会 / 13:00

閉会 / 16:15

場所

北九州国際会議場 メインホール

住所 北九州市小倉北区浅野3-9-30

電話 093-541-5931



基調講演

講師

園山 繁樹 氏

島根県立大学人間文化学部
保育教育学科 教授

テーマ

困った行動の理解と支援
ライフステージを通じ一貫した
支援の重要性を理解する

主催

北九州市・北九州市発達障害者支援地域協議会

後援

北九州市教育委員会・北九州市発達障害者支援センターつばさ
社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会
北九州市自閉症協会・北九州市自閉症児者の未来を考える会
北九州LD等発達障害親の会「すばる」

シンポジウム

テーマ

強度行動障害のある方への支援の実際
本人を中心とした地域での暮らしをどう支えていくか

シンポジスト

今本 繁 氏 (合同会社ABC研究所 代表)
岩倉 聡 氏 (社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会 理事)
村田 一光 氏 (株式会社エスティーロ 代表取締役)
松崎 貴之 氏 (厚生労働省 虐待防止専門官/障害福祉専門官)

コーディネーター

中村 貴志 氏

福岡教育大学教育学部特別支援教育研究ユニット 教授
北九州市発達障害者支援地域協議会 座長

お問合せ

北九州市保健福祉局障害福祉部精神保健・地域移行推進課
〒803-8501 北九州市小倉北区城内1番1号

TEL 093-582-2439 FAX 093-582-2425

お申込み

はがき、FAX、電子申請のいずれかにより、3月16日(必着)までにお申込みください。
新型コロナウイルス感染症の影響により中止になることがあります。



北九州市印刷物登録番号第2211119D

発達障害支援を考えるシンポジウム アンケート結果について

日時：令和5年3月18日（土） 13:00～16:15

場所：北九州国際会議場 メインホール

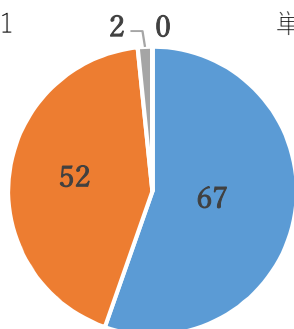
参加者：189名

アンケート回答率：61.3%～68.2%

1 基調講演について

(1) 基調講演 内容の理解

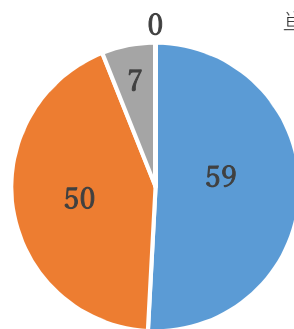
n = 121 単位 = 人



■ よくわかった ■ だいたいわかった
■ あまりわからなかった ■ わからなかった

(2) 基調講演 知りたかったこと

n = 116 単位 = 人



■ 知ることができた ■ だいたい知ることができた
■ あまり知ることができなかった ■ 知ることができなかった

- 内容の理解については、「よくわかった」「だいたいわかった」が回答者全体の約98%。
- 知りたかったことについては、「知ることができた」「だいたい知ることができた」が約94%。

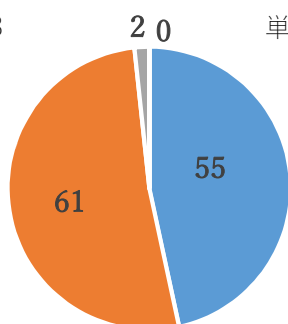
【自由記入欄より（抜粋）】

- チャレンジング行動を少しでも減らしていけるように、まずは評価をしっかり行いその子の背景について考え支援していきたいです。
- 英知を結集して、助けてくれる福祉の力ができることを強く願っています。
- 優秀な専門家や支援者のいる北九州市が先駆的に『ライフステージを通した一貫した支援』のモデルになるような市になって欲しいなと思いました。
- お話が聞きやすく保護者として共感、理解しやすかったです。
- 実践に対して理論的な裏付けが大切だと良くわかった。 など

2 シンポジウムについて

(1) シンポジウム 内容の理解

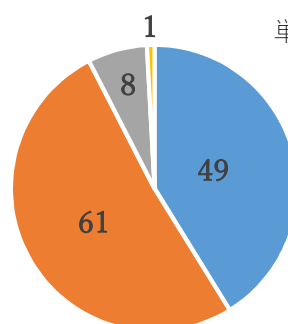
n = 118 単位 = 人



■ よくわかった ■ だいたいわかった
■ あまりわからなかった ■ わからなかった

(2) シンポジウム 知りたかったこと

n = 119 単位 = 人



■ 知ることができた ■ だいたい知ることができた
■ あまり知ることができなかった ■ 知ることができなかった

- 内容の理解については、「よくわかった」「だいたいわかった」が回答者全体の約98%。
- 知りたかったことについては、「知ることができた」「だいたい知ることができた」が約93%。

【自由記入欄より（抜粋）】

- 現場での支援方法を聞くことができ、改めてチームの大切さについて考えさせていただきました。
- 幼少期からの支援が未来を変えるということで責任の重さを感じました。
- 今回のシンポジウムを聴いて、たくさん支えてくれる方が居ることがわかり少し勇気が出ました。
- 一刻も早く、グループホームにこそ専門の支援が行き届くシステムを行政には実行していただきたいと願うばかりです。
- 地域の人材という観点が必要だと言われていたことが印象に残ってます。 など

3 今回聞けなかったこと、もっと聞きたかったことなどの意見

【自由記入欄より（抜粋）】

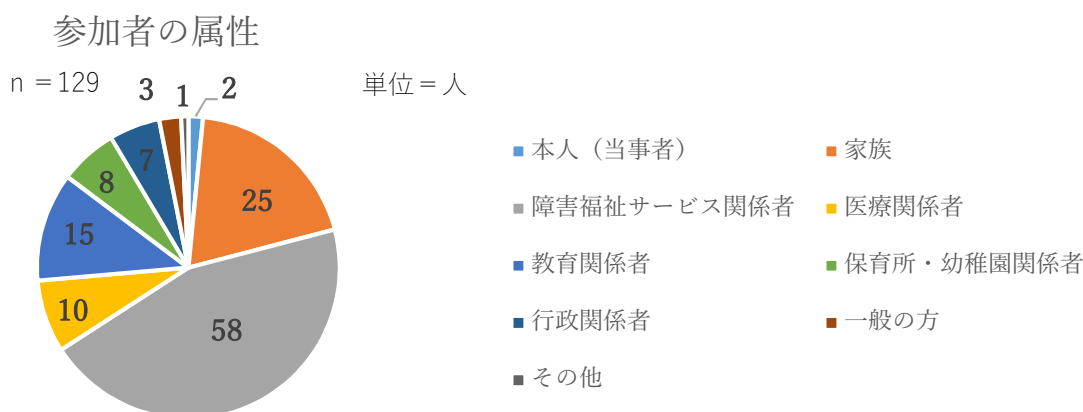
- 教育相談センター等の具体的利用について、北九州での事例とか聞きたかったです。
- 人材育成についての話興味深かった。
- 北九州市の方針に加え、発達障害者支援協議会の今後の取組内容を説明した方がいいように思いました。
- 参加できて良かったです。夫と参加したのですが、絵カード等に興味を持ち早速実践しようとしてくれています。
- 北九州市の教育レベルがアップしていけば良いと最近常々思っています。メディアも連動させてこういった活動を盛んにしていって欲しいです。 など

4 本市の発達障害のある方への支援についての意見

【自由記入欄より（抜粋）】

- 幼少期についての北九州市での取組み、相談できる場、療育ができる場所、人数などもう少し増やしてほしいし、支援を受けやすいようにしてほしい。保護者へも伝えてほしい。
- 障害者に問題が生じた時にまずどこに相談すべきなのか。市民に対して一元化したフローサービスを周知すべき。
- 早い段階で専門機関への相談が必要であると考えますが、待つ期間が長く、その改善をお願いしたいと思います。
- 発達障害のある人がやりたいと思うことを叶えるための情報を探せる場所があると助かります。保護者の勉強会もたくさんあるといいです。
- コーディネーターと呼べる人が少なすぎる様にも感じました。人材不足は職場の士気を下げ、離職率UPに繋がると思うので、福祉の仕事をもっとポジティブに捉えた人が集まる取り組みも必要だと思います。 など

5 参加者について



- 参加者の属性は、「障害福祉サービス関係者」が回答者全体の約45%で最多。
- 次いで、「家族」が約20%、「教育関係者」が約12%。

発達障害支援を考えるシンポジウム アンケート集計表

日時：令和5年3月18日（土） 13:00～16:15

場所：北九州国際会議場 メインホール

参加者：189名

アンケート回答率：61.3%～68.2%

1 基調講演「困った行動の理解と支援～ライフステージを通じ一貫した支援の重要性を理解する」について

- (1) 内容は、 (n=121)
- | | |
|-------------------|-----|
| ① <u>よくわかった</u> | 67名 |
| ② <u>だいたいわかった</u> | 52名 |
| ③ あまりわからなかった | 2名 |
| ④ わからなかった | 0名 |
- (2) あなたが知りたかったことを (n=116)
- | | |
|-----------------------|-----|
| ① <u>知ることができた</u> | 59名 |
| ② <u>だいたい知ることができた</u> | 50名 |
| ③ あまり知ることができなかった | 7名 |
| ④ 知ることができなかった | 0名 |
- (3) 基調講演についてのご意見、ご感想
別紙1のとおり

2 シンポジウム「強度行動障害のある方への支援の実際～本人を中心とした地域での暮らしをどう支えていくか～」について

- (1) 内容は、 (n=118)
- | | |
|-------------------|-----|
| ① よくわかった | 55名 |
| ② <u>だいたいわかった</u> | 61名 |
| ③ あまりわからなかった | 2名 |
| ④ わからなかった | 0名 |
- (2) あなたが知りたかったことを (n=119)
- | | |
|-----------------------|-----|
| ① 知ることができた | 49名 |
| ② <u>だいたい知ることができた</u> | 61名 |
| ③ あまり知ることができなかった | 8名 |
| ④ 知ることができなかった | 1名 |
- (3) シンポジウムについてのご意見、ご感想
別紙2のとおり

3 全体を通して、今回聞けなかったこと、もっと聞きたかったことなどのご意見 別紙3のとおり

4 本市の発達障害のある方への支援についてのご意見 別紙4のとおり

5 あたなについて

(1) あなたは、	(n=129)
① 本人(当事者)	2 名
② 家族	25 名
③ <u>障害福祉サービス関係者</u>	<u>58 名</u>
④ 医療関係者	10 名
⑤ 教育関係者	15 名
⑥ 保育所・幼稚園関係者	8 名
⑦ 行政関係者	7 名
⑧ 一般の方(①～⑦以外)	3 名
⑨ その他	1 名

発達障害支援を考えるシンポジウム アンケート集計表 (別紙1)

1 基調講演「困った行動の理解と支援～ライフステージを通じ一貫した支援の重要性を理解する」について (13件)

(3)基調講演についてのご意見、ご感想

- ① チャレンジング行動を少しでも減らしていけるように、まずは評価をしっかり行いその子の背景について考え支援していきたいです。
- ② たくさんの分野の方がいらっしゃったと思うので、幅広くお話していただいたと思います。様々な分野でのかかわりなど専門の方との協力なども分かりやすかったです。
- ③ 事例を挙げながら詳しく説明していただき、ありがとうございます。一人一人にあった支援が必要だと理解していますが、支援の仕方に悩むことがあります。
- ④ 事例を挙げて頂きわかりやすかったです。基本的配慮としては、まずは信頼関係の構築と理解にあり、適切なかかわりが重要であることを再認識しました。
- ⑤ 行動範囲の理解と援助とても大切だと感じます。就学時はやらせたいことが絞られていて支援もやりやすかったです。卒業後は社会の中でやらなければいけないことと、本人のやりたいが増えるのに、どうすればやれるようになるか今はまだわかりません。たくさん勉強しないといけないと思いました。
- ⑥ これまで園山先生が取り組んでこられたことの一部は知ることができました。ありがとうございました。
- ⑦ とても興味深い内容で、また先生のお話が難しい内容をわかりやすくお話いただけて良かったです。私の息子は重度知的障害と自閉症で、思春期以降、強度行動障害の一步手前のような状態です。今のところあきらかな他害、自傷はありませんが、癩癩で物を噛む、母、先生などを強く掴んで引き倒す、のような行動があります。コミュニケーションの障害も重く、読字、書字はできますが、会話はほぼできません。ここから状態が悪くなれば、強度行動障害になるかもしれない、と不安もあります。家族として、人に迷惑を掛けない子になってほしいので、そのためにできることを一生懸命やっていますが、先生のおっしゃる、英知を結集して、助けてくれる福祉の力ができることを強く願っています。
- ⑧ この分野の最先端である園山先生のお話が聞けた事、大変嬉しく思いました。また、このような企画を行政が入ってされていることに、大変感心致しました。
- ⑨ 強度行動障害の重要性が20年前からいわれていたのに、実践がまだまだこれからという感じなのは、少し残念な気持ちになりました。園山先生も北九州市に帰ってこられるとのこと、優秀な専門家や支援者のいる北九州市が先駆的に『ライフステージを通した一貫した支援』のモデルになるような市になって欲しいなど思いました。
- ⑩ チャレンジング行動という捉え方をしっかりと学ぶ必要があると感じた。
- ⑪ 先生の実践を踏まえてのお話で大変興味深く、勉強になりました。無学な為、時々専門用語に理解がついていかない点もありましたが、お話が聞きやすく保護者として共感、理解しやすかったです。貴重なお話をありがとうございました。
- ⑫ 園山先生の話が面白かったです。初めて行動障害について考えました。園山先生は実際に人に接しておられて立派な人だと思いました。自分自身ももっと本などを読むことが必要と感じました。
- ⑬ 実践に対して理論的な裏付けが大切だと良くわかった。

発達障害支援を考えるシンポジウム アンケート集計表（別紙2）

2 シンポジウム「強度行動障害のある方への支援の実際～本人を中心とした地域での暮らしをどう支えていくか～」について（14件）

(3)シンポジウムについてのご意見、ご感想

- ① 現場での支援方法を聞くことができ、改めてチームの大切さについて考えさせていただきました。
- ② 福祉分野については、私の知識がないため、話を聞くことしかできませんでしたが、保育の現場などで困っているところなど、もっと伝えて行って欲しいです。
- ③ 取り組みを説明していただきありがとうございます。
- ④ 中村先生、素晴らしいシンポジウムでした。ありがとうございました。
- ⑤ 制度設計の行政の方や本人(強度行動障害者)の家族向けの内容なのか？誰をターゲットとした内容なのか不明瞭でした。
- ⑥ 知らなかった事が少しですがわかって良かったと思います。大変な仕事なのでやりがいがあることだと思います。
- ⑦ ポジティブ支援の重要性等を知り環境要因となる適切でない支援によって深刻な行動障害につながる怖さも強く感じました。幼少期からの支援が未来を変えるということで責任の重さを感じました。連携の大切さも改めて感じました。
- ⑧ 強度行動障害までいきませんが、我が子も急に行動障害を起こし、今は行動障害を起こさないために予防的対応しかできていません。新しいことをやらせた時に状況が悪化することがとても怖いです。今回のシンポジウムを聴いて、たくさん支えてくれる方が居ることがわかり少し勇気が出ました。
- ⑨ シンポジストのお話からコーディネーター(中村氏)が様々な課題を明確にされていました。その課題はどれも早急に解決していかないといけない課題であったように感じました。その中で、北九州市として今後、明確になった課題をどのように対応していくか等の話があれば更に良かったと思います。
- ⑩ 今回は、学校教育面でのお話がありませんでしたが、子どもたちが家庭の次に長く過ごす場所は学校だと思います。しかし、今の特別支援学校の先生方を見ると行動障害や、コミュニケーションの重要性についての知識が十分だとは思いません。小学校まではまだしも、中、高等部になると、卒後の就労のことばかりがカリキュラムの中心で、基本的な身辺自立の教育は終了しました、という感じを受けます。しかし、思春期以降に行動障害、特に他害が問題になってきて、外出どころか、受け入れてくれる福祉事務所を探すのにも苦労している方がたくさんいます。この状態を改善するために、教育現場ではもっと積極的にコミュニケーションの教育を重点的にして欲しいと思います。
- ⑪ 地域の人材という観点が必要だと言われていたことが印象に残っています。
- ⑫ 実際にグループホームなどの地域で暮らせるのは、強度行動障害のないASD特性の軽い方が多いのが現状だと思います。重度の人は、大人になっても生活の場に支援が不可欠なので、なかなか受け入れてもらえず、結局ぎりぎりまで親が支援するしかない…。一刻も早く、グループホームにこそ専門的支援が行き届くシステムを行政には実行していただきたいと願うばかりです。
- ⑬ 松崎先生のお話の際のスライドや資料が多すぎて集中できず、興味深い内容でしたがちょっと聞きにくく感じました。かなり無理をしてまとめられたとの事でしたが、先生のお話は聞きやすく簡潔にまとめられている様でしたので、それが少し残念でした。保護者として参加しましたので、ここでも専門的な用語に理解が追いつかないことがありました。
- ⑭ 全体的に少し難しかったです。皆さんとても勉強や研究や活動しておられているんだなと思いました。村田先生の話は少し分かりやすかったです。もっと色々な先生がいればまた変わるのかなと感じました。

発達障害支援を考えるシンポジウム アンケート集計表 (別紙3)

3 全体を通して、今回聞けなかったこと、もっと聞きたかったことなどのご意見(11件)

- ① 支援センターや、教育相談センター等の具体的利用について、北九州での事例とか聞きたかったです。小倉の方は充実していますが、八幡西区の方などもこれからもっと増えてほしいです。
- ② 人材育成についての話興味深かった。
- ③ 講演内容とは別ですが、本日近隣の会場でイベントが開催されているため、駐車場を見つけることが大変でした。事前のロジ周りで事前に案内を出すと交通機関を利用したり、周辺を避けたりできたかと思えます。ロジ周りの準備をもう少しきちんとしてほしかった。
- ④ 障害に関わる方たちが試行錯誤しながら障害者のために日々関わってくれていることに頭がさがります。今後もたくさんの研究会に参加して、私も日々頑張りたいと思います。ありがとうございました。
- ⑤ 主催者である北九州市の方針に加え、発達障害者支援協議会の今後の取り組み内容を説明した方がいのように思いました。
- ⑥ 参加しやすい時間帯でしたが、半日でこの内容をするには時間が足りない感じでした。
- ⑦ 強度行動障害のある方の地域での暮らしを考える検討会が始まったばかりだなんて、驚きです。早く進めて頂かないと、間に合いません。グループホームには入れない重度の子供と高齢者の親と、いつか共倒れになりそうです。
- ⑧ このような研修を企画していただきありがとうございました。内容を継続してもらい行政が先頭に立って地域の人材を育成する機会を今後もお願いします。
- ⑨ 全体的に良いお話をたくさん聞かせて頂けて、参加できて良かったです。夫と参加したのですが、絵カード等に興味を持ち早速実践しようとしてくれています。ありがとうございました。
- ⑩ 大学で発達障害について少し学び、自身も精神障害がある中、参加させて頂きました。様々なレベルで、色んな方が支え考えているのだと感じました。北九州市の教育レベルがアップしていけば良いと最近常々思っています。メディアも連動させてこういった活動を盛んにしていって欲しいです。今日はありがとうございました。
- ⑪ 実践からそれを裏付ける理論まで、盛りだくさんで有意義だった。

発達障害支援を考えるシンポジウム アンケート集計表（別紙4）

4 本市の発達障害のある方への支援についてのご意見（12件）

- ① 幼少期についての北九州市での取り組み、相談（巡回指導も予約が取りにくい、親の相談も予約待ち）ができる場、療育ができる場所、人数などもう少し増やしてほしいし、支援を受けやすいようにしてほしい。保護者へも伝えてほしい。
- ② グレーゾーンと言われる障害認定までにはいかないがどうしたら良いか？悩む保護者がいるのではないのでしょうか。
- ③ 障害者に問題が生じた時にまずどこに相談すべきなのか？行政の窓口をまず通すのか、学校や当事者なのか？つばさなのか？市民に対して一元化したフローサービスを周知すべき。
- ④ 早い段階で専門機関への相談が必要であると考えますが、待つ期間が長く、その改善をお願いしたいと思います。
- ⑤ 発達障害のある人がやりたいと思うことを叶えるための情報を探せる場所があると助かります。保護者の勉強会もたくさんあるといいです。
- ⑥ 「強度行動障害」は、先天性の障害ではなく、人を含めた不適切な環境要因が積み重なった状態が続いた結果、ご本人たちの不適応行動として表れる、後天性の「二次障害」だと思います。このことを各関係者、機関が理解し、縦割り構造からの脱却が必要だと思われます。
- ⑦ 障害者も地域で暮らせるようにという国の方針ですが、実際、強度行動障害の方が入居できるグループホームはほとんどなく、入所施設も他害があると受け入れて貰えず、理想を掲げるなら受け皿を整えてからにして欲しいです。
- ⑧ 市をあげての企画に感心するとともに、他の都市にも影響を広げてほしいと思います。
- ⑨ 北九州市が打ち出された基本の手立てを、支援者や保護者に啓発して、どのライフステージでも、どの環境でも統一した支援がなされるようになって欲しいと思います。
- ⑩ 連携が叫ばれる中、コーディネート役の不在、不足はとても大きな課題だと思います。コーディネートできる人材は簡単には育成できません。公的報酬をしっかりと手当てしないと社会的な地位も上がりません。地域連携は片手間な儲からない仕事に位置付けられてしまいます。
- ⑪ パARENTトレーニングを受けられる場所が分からないのでそういった場所を増やして欲しいです。福祉の支援に関わる方達は本当に頑張って下さっているので、それが収入や支援者さんたちのQOLの向上に繋がるように市も支援できる事があればしてほしい。それとコーディネーターと呼べる人が少なすぎる様にも感じました。人材不足は職場の士気を下げ、離職率UPに繋がると思うので、福祉の仕事をもっとポジティブに捉えた人が集まる取り組みも必要だと思います。
- ⑫ 今の所、勉強不足故か、自分ではよく分かりません。今後自分自身で勉強していきたいです。そうする事でよりよい街になって行くと思います。

主な内容

特集 1~2
新しい生活で悩んでいませんか？

トピックス 3~4
●身近な防犯対策を心がけましょう！
●習ホール30周年記念イベントを開催します など

すこやかハート北九州 5
情報ステーション 6~11
*最終ページは人口データと若松区の情報

【特集】新しい生活で悩んでいませんか？

「発達障害」による特性・特徴と上手に付き合うために

新学期・新生活を迎えるこの季節。生活環境が変わることで、さまざまな問題や困難に直面したり、養育者が育児の悩みを抱えたりすることがあります。もしかすると、それは発達障害によるものかもしれません。早い時期からの周囲の理解と、能力を伸ばすための必要な支援や環境の調整が大切です。

発達障害とは？

発達障害は、生まれつきみられる脳の働き方の違いにより、幼児のうちから行動面や情緒面に特徴がある状態です。子どもにも大人にもこれらの特徴を持つ人がいます。自閉症スペクトラム障害(アスペルガー症候群など)や注意欠如・多動性障害(ADHD)などが含まれます。

困っていませんか？
発達障害には次のような特性・特徴がある人もいます。



～発達障害は障害の困難さが注目されがちですが、優れた能力が発揮される場合もあります～

自閉症スペクトラム障害 Aさんの例

急に予定が変わったり、知らない場所に行ったりすると不安になり動けなくなることがあります。周りの人が促すと余計に不安になり突然大きな声を出してしまうことがあります。でも、よく知っている場所では一生懸命に活動に取り組むことができます。



注意欠如・多動性障害(ADHD) Bさんの例

大事な仕事の予定を忘れたり、大切な書類を置き忘れたりすることがよくあります。周りの人にあきれられ、「何回言っても忘れてしまう人」と言われてしまいます。でも、気配りすることが得意で、困っている人がいれば誰よりも早く気づいて手助けすることができます。



市では、発達障害者支援センター「つばさ」を中心として、就学前の早期支援や就労支援など、その時の状況に応じた切れ目のない支援に取り組んでいます。また、講演会や研修会を開催し、発達障害を多くの人に理解してもらうための活動も行っています。

**お困りごと、お悩みがあれば、
まずは発達障害者支援センター「つばさ」に相談を**

相談支援

- 「人とよくトラブルを起こしてしまう」「集団活動になじめない」などの日常生活の相談に乗り、助言や関係機関の紹介、情報提供などを行います。
- 家庭・保育園・幼稚園・学校・施設・勤め先などへ訪問し、本人の様子を伺いながら、周りの人と支援方法などについて一緒に考えます。

就労支援

- 職場での悩みや就職に関する相談を受けて、福岡障害者職業センター北九州支所や北九州障害者しごとサポートセンターなどの関係機関と連携を取りながら支援を行います。



▲小倉総合特別支援学校の2階にあります
落ち着いた相談できます▶

他にもこんな支援を行っています

講演会・研修会などを開催します

発達障害に関する正しい理解や支援の方法を広めるために、支援者や市民を対象にした講演会や研修会などの企画運営や講師の派遣を行います。



ペアレント・メンターを派遣します

「子どもが発達障害かもしれないが、どうすればよいか分からない」「自分の気持ちを誰かに共感してほしい」などの発達障害に関する保護者の不安や悩みを聞き、情報提供などを行います。



ペアレント・メンターってどんな人？

発達障害のある子どもを育ててきた先輩保護者で、さまざまな子育ての悩みを抱える親の話の聞いたり、情報提供などを行う人のことをペアレント・メンターと呼びます。

申し込み方法など、詳しくは発達障害者支援センター「つばさ」までお問い合わせください。

支援者の声 支援を、相談者やご家族に寄り添いながら行っていきます。

当センターでは、発達障害と診断された人はもちろん、病院を受診していない人も含めて、年齢を問わず、広く相談を受けています。相談内容は「どんな病院にかかればいいのか」「進路や将来の生活が心配」などのほか、ご家族や学校、職場からの相談もあります。相談の際は、生活状況などを聞き取りながら問題点を整理し、相談者と一緒に対応策を考えていきます。発達障害は一人一人症状や状況が違うため、相談を重ねて心の負担軽減を目指す場合や、医療機関や行政機関との連携を進める場合など、支援の形もさまざまです。学校や職場でうまくいかないとお悩み本

人や子育てに不安を抱えている親御さんなど、ぜひ私たちにご相談ください。ご本人やご家族の思いに寄り添いながら、少しでも前に進めるよう、一緒に考えていきます。



発達障害者支援センター「つばさ」
センター長 金光律子さん(右)
相談員 山本亜由美さん(左)

発達障害と診断された当事者の声 無理して周囲に合わせようとせず、自分らしさを大切に。

私は、職場での雑談や飲み会といった、仕事と直接関係のないコミュニケーションが苦手で、人間関係に難しさを感じてきました。また、一度集中すると休憩を取らずに仕事を続けてしまうところがあり、過労で倒れたことがありました。その際に心療内科を受診したところ「アスペルガー症候群」と診断されました。以降、何気ない会話にストレスを感じたり、過去のつらい記憶がよみがえった

りした時には、支援センターに相談しています。相談員と話すうちに頭の中が整理され、それほど深刻に悩まなくていいのかなど、気持ちを無理なく切り替えられるようになりました。発達障害の人の中には、無理して周囲に考えを合わせようとしている人がいるかもしれませんが、自分の長所を伸ばし、自分らしく過ごすことが大切だと考えています。

Kさん(30代女性)

北九州市発達障害者支援センター「つばさ」

☎ **922・5523** メールアドレス:
kitakyu.tsubasa@kitaq-src.jp

小倉南区春ヶ丘10-2 小倉総合特別支援学校2階
【相談受付時間】8時30分～17時 【休館日】土・日曜日、祝・休日、年末年始
相談は電話や来所のほか、メールとFAX、郵便でも受け付けています。

※来所での相談は事前に電話での予約が必要です。
※メール・FAX・郵便での相談は、返信に数日かかることがあります。

発達障害についての情報や、市内や近隣地域で開催される研修会などの情報はコチラから▶



この特集に関するお問い合わせ **保健福祉局精神保健・地域移行推進課 ☎582・2439**